

**平成24年度 事務事業評価シート**

<b>事業の概要</b>	事務事業名	耐震管によるループ化を進める事業						担当部	上下水道部
	会計区分	水道事業会計			事業類型	施設整備系	担当課	水道課	
	事業期間	平成12年度以前 ~ 平成30年度以降			担当係	建設係			
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		24 水の供給		1 耐震管によるループ化を進める		
		副目的	24-3						
	予算区分	款	1	項	1	目	1	大	中
	根拠法令・個別計画	小牧市上水道耐震化対策基本計画(平成17年度作成)							
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	98.3 %		委託	1.7 %		助成	0 %
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	○主要幹線の耐震管によるループ化を進め、地震災害発生時の被害抑制を図る。							
	内容 (手段)	<p>○耐震管によるループ化を進める。</p> <p>・主要幹線を耐震管でループ化することで、主要幹線が災害で損傷を受けないか、万一損傷を受けて断水した場合でも他ルートで配水できるようにします。</p> <p>本庄低区配水区内の主要幹線では、平成23年度末までの整備済延長は約16.3kmで、平成30年度までに目標値約27.6kmを達成するため、毎年約1.5km耐震管を布設します。</p> <p>平成23年度は平成22年度の繰越事業と合わせ約2.7kmを建設係4人で分担し設計から工事発注、監督までを実施しました。</p> <p>※平成23年度直接経費の内訳：H22繰越事業費の内15節 0円、20節 132,449,100円 H23決算額の内15節 6,447,000円、20節 240,396,817円 合計 379,292,917円</p> <p>※その他財源の内訳 : 消化栓設置工事負担金 1,603,170円</p>							
受益者負担	無								

			単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額	
	<b>コスト</b>	<b>費用</b>	直接経費		千円	70,980	236,108	379,293
正職員			従事者数	人	0.65	0.86	0.65	0.65
			人件費	千円	3,457	4,574	3,457	3,457
その他職員			従事者数	人	0.00	0.22	0.15	0.15
			人件費	千円	0	557	380	380
費用合計			千円	74,437	241,239	383,130	368,887	
対前年比		%		324.0	158.8	96.2		
<b>財源</b>	一般財源		千円	0	5,092	381,527	367,039	
	国・県支出金		千円	0	0	0	0	
	その他財源		千円	74,437	236,147	1,603	1,848	

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24	
	耐震管によるループ化を進める	km	目標		14	16	17	18
			実績		13	15	16	
			目標					
			実績					
			目標					
実績								
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24	
	主要幹線の耐震管によるループ化率	%	目標	52	59	63	67	
			実績	47	54	59		
			目標					
			実績					

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	平成23年度は、平成22年度の繰越事業(1,065.8m)を含め2,743.9mのループ管の一部が完成した。 これは、平成21年度より取組んでいる、年平均1.5kmのループ管施工計画の目標値を若干下回っている。				
		事業実施における課題等	ループ化計画作成時の幹線配水管の布設ルートが地形の詳細調査で施工が困難な箇所が発生している。 工法変更、ルート変更等ループ化計画の見直しを至急実施したい。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	ループ化全体を完成させないと、施設が機能を発揮出来ない。 よって、当該事業は計画通り実施していきたい。				
	今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持				
		判定理由	幹線配水管のループ化によって、地震災害において管の破損による断水が大きく軽減されるばかりでなく、万一の破損においても別ルートからの配水を受けることができるため、長時間断水のリスクが大幅に小さくなる。				
		改善案等	早期完成に向け、道路管理者・河川管理者等との事前調整を十分に行い、必要なループ化計画の見直しを行う。				

二次評価	方向性の判定	判定理由				
	現状維持	一次評価のとおり。				